犀陵だより

平成 27 年 11 月 25 日
犀陵中学校長　嶌田　　均

授業を追って

本年度の全校研究テーマ
「学ぶ意欲を高めていく学校の創造
～学び合うよさと自らの高まりを実感する生徒～　」

ある学習課題に向かってグループやペアで話し合いながら追究していくという授業スタイルはいろいろな点で効果があると考えられ、本校でも日常的に授業に取り入れようとしています。しかし、この期待される効果は学習内容の理解・定着に限ったものではありません。学校でいろいろな人が集まって集団生活を営み、学ぶということは、社会の一員として成長していくために必要な「社会的資質」を培う最適な場所の１つと考えられます。グループやペアでいろいろな教科を通して学びながら、お互いの感性や考えを知り、理解し、認め合っていける自分へと成長させることは「社会的資質」を支える大切な要素の１つです。「認める」「認められる」という互恵の人間関係は、生徒同士のみならず、生徒と先生の人間関係にも大切な要素として根底になければならないものだと考えます。

これを具現化すべく、教育委員会指導主事の先生や他校からの参観者を招いて、授業を公開してきました。

10 月 22 日(木)　技術・家庭科　長野上水内教育課程研究協議会

２年生の技術では、「世界に一つだけのペン立てを作ろう」という金属加工の学習で、金属板をまっすぐに切るにはどうしたらよいかをペアでアドバイスしながら作業をしました。

３年生の家庭科では、「わたしだけのハーフパンツを作ろう」という被服の学習で、ミシンを使ってより上手に縫うためのチェックポイントをペアで注意し合いながら作業を進めました。「そこはこうしたらいいんじゃないか」「ここは注意してすすめるんだよね」など、話し合いながら作業を進めます。家庭科では授業の最後に、ペアの相手に感謝の言葉も書いて交換し、それをニコニコしながら読む姿もありました。授業の内容から考えれば、単に一人ひとりが技術を習得すればよいことなのかもしれませんが、ペアで学習を進める場面を通して、相手のことを考えながらコミュニケーションをとり、協力することを学んでいくと期待できます。

参観された長野上水内技術・家庭科の先生方による授業研究会では、どちらの授業も子どもたちは見事な学び合いの姿を見せていたと高評でしたが、学び合い活動における課題も出されました。例えば、今日の授業を振り返る場面では、「学習課題に対してどうであったか【結果】、なぜそうなったのか【理由】、これからの学習にどう取り組んで行くのか【見通し】」を書かせることが大切であると教えていただきました。

閉会式では校長が、「技術の授業の後、何の指示もないのに切断した金属片が机の上にきれいに並べられており、また、家庭科の授業を受けたＫ君は、すがすがしい表情で授業を頑張ったと伝えてくれました。充実していたことが授業後の子どもたちの姿で分かりました」と評しました。

10月28日(水)　数学全校研究会

１年生の数学では、「作図を楽しもう！」という単元で、コンパスを用いて線分 XY に下ろした線が垂直であるという理由を説明することを目標とした授業を行いました。作図や説明はとても難しかったようで、グループで話し合ってもなかなか思うように進みませんでしたが、友だちの意見を参考にしたり、質問したりしながらなんとか解決しようとする姿が見られました。グループで行う学習課題をどのようにしたらよいか、課題も残りました。

11月18日(水)　北長野ブロック学校人権教育連絡協議会

２年生で、「ほんとうのきもち」と題して人権教育を行いました。長野市の小中高の学校から30名以上の参観者を迎え、２名の指導主事の先生にご指導いただきました。

使った資料は「おこだでませんように」という小学校低学年向きの絵本ですが、そこに出てくる人物の言葉にならない気持ちを中学生のレベルからグループで考え合う場面も取り入れました。そして、人の気持ちを表面だけで捉えては分からないこと、自分できちんと相手に伝えなければ「本当の気持ち」は伝わらないことを学び、学級の日常生活に照らし合わせて、これからどうしていったらよいかを考えることができました。

いつも当たり前のように一緒にいる級友ですが、こうした話し合いを通して、友だちがどう思うのか、何を考えているのかお互いにわかり合うための大切な時間になったと思います。